

# 阿寒湖のマリモを、もう一度 見つめ直してみませんか？

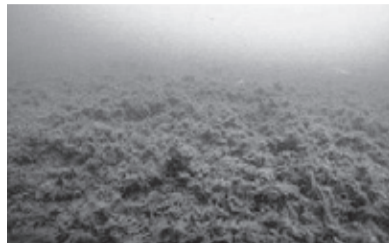
問合せ先 【マリモについて】阿寒生涯学習課（☎66-2222）、【世界遺産登録について】都市経営課（☎31-4502）

最近の研究結果で、阿寒湖のマリモは世界でも希少な植物であり、また、世界中のマリモが日本列島に起源しているものと考えられることから、今、阿寒湖のマリモが世界中から注目を集めています。さらに、そのマリモが生育する阿寒湖の世界自然遺産候補地選定に向けた機運が高まっています。この機会に、マリモについてもっと知って、もう一度、阿寒湖のマリモについて考えてみませんか？

## さまざまな自然の偶然がもたらした神秘のマリモ

### ●阿寒湖のマリモが丸くなる仕組み

- ・マリモはもともと長さ3~4cmの枝分かれした小さな灌木状をした植物（これを糸状体と呼びます）で、阿寒湖では小石や岩について生育しています。
- ・この糸状のマリモがちぎれて湖底をふわふわと漂いながら成長して、糸状体が集まった集合体を形成します。
- ・集合体は波に揺られながら成長し、糸状体が放射状に丸くなります。この丸いマリモを「球状マリモ」と呼びます。
- ・球状マリモは、直径が10cmを超えるようになると、中心部から枯死して中に空洞が生じます。
- ・空洞が大きくなった球状マリモは、自らの重さを支え切れず、水中でつぶれたり、水流によって運ばれて湖岸に打ち上げられ、破損してしまいますが、壊れた断片の一部が成長して、再び球状マリモになっていきます。
- ・球状マリモは、条件が良ければ1年で2~4cm成長します。10~20cmの大きさになるまでに約5年かかることとなります。



←岩石に付着したマリモ糸状体。



球状マリモ

### ●マリモが生育する阿寒湖の特異な環境

- ・球状マリモが生育する背景には、マリモ自体の生物特性に加えて、阿寒湖が有する特殊な環境が大きく関与していると考えられています。
- ・阿寒湖は十数万年前に形成された古阿寒湖と呼ばれる巨大なカルデラ湖を起源とし、その中央河口から噴出した雌阿寒岳の溶岩によって、カルデラ内がいくつかにせき止められた結果、およそ1万年前に現在の姿になりました。
- ・こうした噴火の歴史が、出入りの激しい湖岸地形や複数の島を誕生させ、それが場所ごとに湖水の流動や湖底の傾斜など種々の違いをもたらしており、この違いがマリモが生育していく環境の重要な要素である水深や湖底の光の強さや、付着する岩石の大きさなどに多様性を与えます。



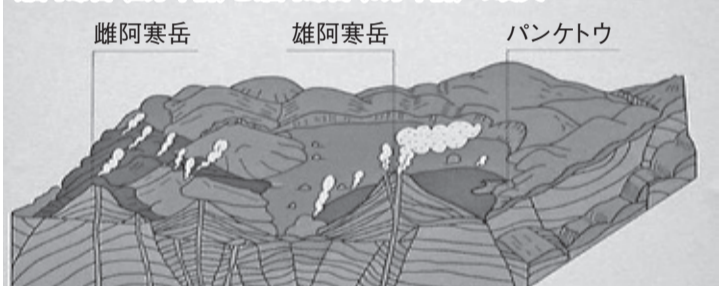
独特の景観と環境構造を有する阿寒湖

- ・特に球状マリモが群生する北部のチュウレイ湾とキネタンペ湾は、小河川の浸食で谷地形が発達して、小さな入り江となり川が運んだ土砂が河口付近に堆積し、遠浅の砂浜を発達させており、この地形的な特性がマリモが波に揺られて球体に成長させていく条件として極めて重要な役割を担っていると考えられています。
- ・また、阿寒湖に流入する河川や湖底から湧き出す地下水（温泉）がマリモの生育に大きく関わっていることも明らかになっています。

カルデラと古阿寒湖の生成 (15~10万年前)



雌阿寒岳 (2万年前) と雄阿寒岳 (1万年前) の噴火

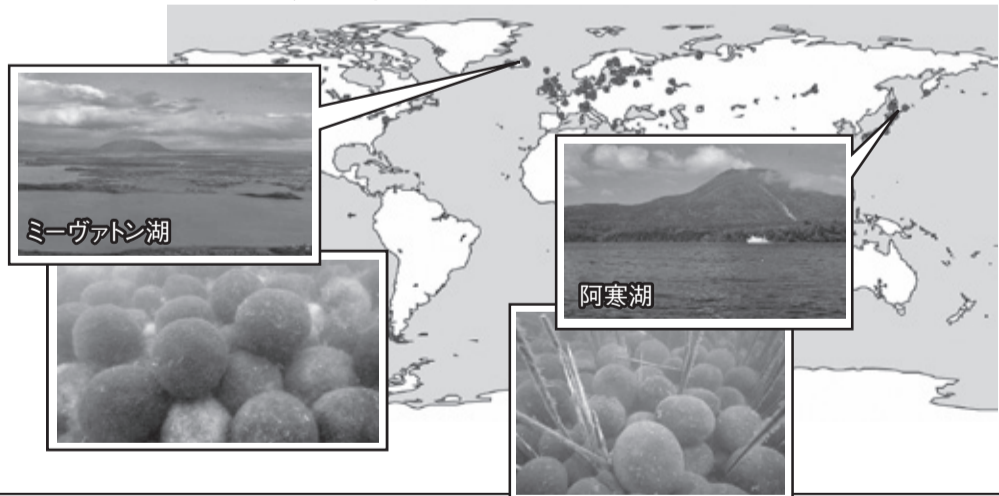


雌阿寒岳 雄阿寒岳 パンケトウ

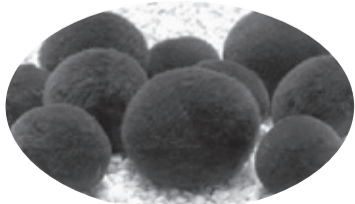
### ●阿寒湖のマリモの希少性

- ・最近の研究で、マリモは北半球の高緯度地方に広く分布しているものの、大半は岩石に付着したり湖底を浮遊する糸状体で、球状になって群生しているのは、阿寒湖とアイスランドのミーヴァトン湖の二つに限定されることが判明しました。
- ・また、種としてのマリモは日本列島周辺に起源し、数万年前に北米やヨーロッパに移動、分散したと考えられています。
- ・こうしたことから、阿寒湖のマリモは世界でも希少な植物であると明言できるようになりました。

マリモの世界的分布と球状体群落を有する湖



## 世界自然遺産候補地選定に向けた機運の高まり



- ・阿寒湖のマリモは、将来世代に引き継ぐべき貴重な宝です。
- ・我が国を代表する自然環境を有し、世界的にも希少価値の高いマリモが生育する阿寒湖の世界自然遺産候補地選定に向けて、地域が一丸となって運動を展開していくことが重要です。
- ・地元阿寒湖温泉では、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構や、阿寒湖のマリモ保存会が中心となり世界自然遺産に関する勉強会の開催など、世界自然遺産の登録への機運が高まっています。